

小倉記念病院 循環器内科日より

つなぐ

Vol.7

2016.1月

今から十八年前、当院で働く一人の若者がいた。

名は、吉田善紀。

研修医時代も含め、循環器内科医として四年在籍。

しかし彼は、術から研究の道へと方向転換。京都へ向かう。

後の京都大学iPS細胞研究所(サイラ)である。

そして、iPS細胞(人工多能性幹細胞)誕生に

大きく関わることになる。

人間万事塞翁が馬。もし、研究の道を志さなければ、

再生医療の道は、より遅れていた可能性がある。

自分の道を求めることで、医療の未来を切り開いた。

そうした才能にしっかり目を配り、輩出していくことも、

医学の進歩に大切なことである。

来る一月、彼は当院で自分の研究と再生医療について語る。

循環器内科で培った技術や知識は今、

心筋再生という分野につながり、活かされようとしている。